
生活

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

生活

【Nコード】

N9228A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

夜、開け放した窓からいつもの彼がやってくる。高校受験を控えたりエは、彼にいろいろと聞いてみたいことがあった。

大きく伸びをした。

涼しい風が開け放した窓から吹いた。

「こんばんわ。」

Tシャツと長い半ズボンをはいた彼が窓から顔を出した。

「二二、五階よ。」

「知つとる。階段上るのかつたるくてさあ。」

「あのさあ、地球人は窓から入ったりしないの。目立つから入りなよ。」

「大丈夫や、誰もおらんかったし。」

勉強機の電気スタンドを消す。

ソファには座らずにベットに倒れこむ。

「疲れたあ〜。」

「またジユケンかあ、頑張るなありエは。」

いつものソファに彼があぐらをかいて座る。

時計を見ると、十時を回った所。

「あなたの星には受験はないの？」

「受験？ないない、学校はあるけど、なんでわざわざガッコウに入るために勉強せなあかんの？ガッコウは知識を教える所やる？」

意外とまともな正論だ。

「だって、入りたい学校に入れる人数は決まってるじゃない。だから、頭が良くないとその数人に入れないのよ。」

少しの間、考えて私は言った。

「リエはその高校に入りたいから頑張るんやな。」

私はその高校に入りたいのだろうか。

「そうそう。絶対合格してやる。」

「ふーん。」

気合いを入れたのは私だけで、彼は気のない返事をした。

「あなたの星では、好きな学校に何人でも入れるの？」

「いや、学校が好きってやつがそんなにいないしなあ。みんな勉強嫌いやし。」

「へえ、そうなんだ、学校に行かなくても何も言われなの？」

「なんで？別に何も言われたいよ。地球ってやっぱ変やなあ」
「そこまで言われると、何も言えない。」

「勉強しなかったら…何をするの？仕事？」

「そうやなあ、食べたり、作ったり、喋ったり、いろいろやな。」

話を聞いて、私は彼が羨ましくて仕方がなかった。

「いいなあ、楽そうで。」

「そうか？それが普通だし、楽かどうかも分からんなあ。喋りたい時に喋って、食べたい時に食べる。意外と難しいんやで。」

私はいつのまにかウトウトしていた。

「そう…かもね。」

「まだ喋べりたいと思っても、お腹が減ることもあるやろし。」

「うん…確かに。勉強しなきゃって思っても、眠くなる。」

「都合よく、いつも食べ物がある訳じゃないねん、いつも食つもの探さなあかんし。」

「う…ん。」

「特に、食べ物動かなくなる時を待つのがって退屈なんだよね。」

「そう…なの。」

「いい暇潰しになったし、そろそろ帰るわ。おやすみ。」

「……」

開け放した窓からは、夜風が濁いた風が吹いている。

「生きていくってのは、こういうことやんな、リエ。」

風に吹かれて勉強机から、ノートや鉛筆が落ちた、そしてそのまま動かなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9228a/>

生活

2010年10月10日00時42分発行